長岡中央綜合病院　倫理委員会　オプトアウト書式

①　研究課題名	当院における原発性十二指腸癌の臨床病理学的検討
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者　仲野哲矢	
2002年1月から2022年11月までに当科で外科的切除を施行した原発性十二指腸癌21例	
②　概要概要：原発性十二指腸癌は治療成績や予後因子などに関してまとまった報告がなく，治療方針や至適術式は確立されていない．当科における原発性十二指腸癌切除症例に対し臨床病理学検討を行った．年齢の中央値は67(35-83)歳，男女比は13:8であった．術前に通過障害などの症状を認めた症例は6例(28%)，黄疸を認めた症例は5例(23%)であった．腫瘍マーカーの中央値はCEA 2.4 (1-10.5) ng/ml，CA19-9 30.6 (2-1830) U/ml．腫瘍の局在は十二指腸乳頭部の口側/肛門測で8/13例であった．手術術式はPD/SSPPD/PPPD/DG/十二指腸部分切除/粘膜切除がそれぞれ10/3/4/2/1/1/であった．腫瘍長径中央値は42 (13-90)mmであり，主組織型はwell/mod/por/その他で11/2/5/3例.T分類は,Tis/T1a/T1b/T2/T3/T4がそれぞれ0/2/0/3/3/13例であり，リンパ節転移を12例(57%)に認めた．リンパ節転移はNo.6, 8ap, 12abp, 13ab, 17abに認められた．術後補助化学療法が9例(43%)に施行された．5年生存率は30.3%，生存期間の中央値は812日であった．予後と相関関係が強かった因子は，術前CA19-9高値(p=0.02)，分化度(p=0.038)，静脈浸潤(p=0.033)，リンパ節転移(p=0.004)であった．原発性十二指腸癌は乳頭部癌のような特有の症状を呈しにくいため，進行した状態で発見されることが多い。本研究では粘膜癌以外のT2以深の十二指腸癌ではNo.6,8,12,13,14,17リンパ節転移を認めることがあり，リンパ節郭清を伴う膵頭十二指腸切除が必要であると思われた．術前のCA19-9高値，低分化度で脈管浸潤を伴う症例では予後不良となる可能性が示唆され,腫瘍局在と進行度に応じた至適な手術術式,リンパ節郭清,術後補助療法に関しての症例の集積と検討が必要である．	
③　申請番号	
④　研究の目的・意義	原発性十二指腸癌はまれな疾患であり至適リンパ節郭清，手術術式など明らかにされていないことが多い．今回臨床病理学的な検討を行うことで今後の治療方針の一助となる可能性がある．
⑤　研究期間	2002年01月から2022年11月まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	日本消化器外科学会総会ホームページ
⑧利用または提供する情報の項目	血液，画像，病理，臨床記録
⑨利用の範囲	長岡中央綜合病院外科医長　仲野哲矢
⑩試料・情報の管理について責任を有する者・連絡先	長岡中央綜合病院外科医長　仲野哲矢
⑪お問い合わせ先（照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先）	長岡中宗総合病院　外科　仲野哲矢 〒940-8653 新潟県長岡市川崎町2041番地 TEL 0258-355-3700 FAX 0258-33-9596